

東日本大震災復興支援

生活支援相談員ニュースレター～VOL. 8～

平成28年3月発行

【発行】

岩手県社会福祉協議会 地域福祉企画部 コミュニティ振興グループ

岩手県盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内 TEL:019-601-7032 FAX:019-637-7592

陸前高田市社協が小地域ネットワーク活動研修会を開催

平成28年2月22日（月）、陸前高田市社協は、竹駒事務所で小地域ネットワーク活動研修会を開催し、地区コミュニティ推進協議会役員、地区民児協会会長等42名が参加しました。

生活支援相談員が支え合いマップ作りを事例発表！

地域福祉活動事例発表では、生活支援相談員3名が、下矢作地区支え合いマップ作りの取組みを紹介しました。生活支援相談員は、マップ作りに協力いただいた民生委員、世話焼きさんと振り返り報告会を開催したほか、「一回でマップ作りを終えるのはもったいない」との声を受け、住民たちがマップを更新していくように地域で検討する必要があると発表しました。また、研修会では、白紙の地図を用いてマップ作りを実演しました。参加者も理解しやすく、元気な発表に会場も盛り上がりました。

その他の事例発表は、以下のとおりです。

- ① 災害公営住宅のサロン活動（発表者：気仙地区民児協会会長）
- ② 災害公営住宅との合同交流会（発表者：柳沢部落会副会長）
- ③ 老人クラブの友愛活動訪問（発表者：箱根老人クラブ会長）
- ④ 福祉無償運送事業（発表者：社協職員）

※ 生活支援相談員3名は、平成27年度、県社協が主催するマップインストラクター養成研修を受講し、下矢作地区の住民の協力を得て、マップ作りに取り組みました。



福祉無償運送事業を開始

平成27年7月下旬から、陸前高田市社協は、福祉無償運送事業を開始しました。事業の概要は以下のとおりです。

- 公共交通機関の利用が困難な方に対して、無償で送迎を行う。
- 利用目的に制限はなく、月3回まで利用可能。（空きがあれば臨機応変に対応。）
- 平成28年1月末時点で登録者117名、利用回数延べ947回。
- 登録希望があれば自宅に訪問し、住環境、身体状況を確認。介護保険未申請の場合は、必要に応じて地域包括支援センターにつなぐなど、連携強化を図っている。
- 日々の利用で、見守りを兼ねることができている。（家の中で倒れていた方を発見できた例あり。）
- 利用者からは、「病院やサロンに行けるようになった」、「できればずっと続けてほしい」との声。
- 平成27年度は、赤い羽根共同募金を通して全国から事業への賛同をいただき実施。市内で移動支援が求められる中、今後は行政や関係機関と協議し、予算確保を検討。

奥州市民と宮城・県内避難者が交流 —社協が住民交流会を開催—

平成 28 年 3 月 14 日（月）、奥州市社協は、「奥州市で暮らす住民同士の親睦交流会」を開催し、宮城県や県内沿岸部から市内に避難している方 21 名、地域住民 13 名、地域のボランティア 12 名の計 46 名が参加しました。

震災から 5 年が経った今、奥州市社協は、「避難者の方々は、一人の奥州市民として地域住民と交流し、親睦を深め、安心して暮らすための基盤づくりが必要な時期に来ているのではないか」と考え、今回の交流会を企画しました。

交流会の昼食は、地元ボランティアによる郷土料理「奥州はっと」が振る舞われました。その後、バスで移動し、岩谷堂筆筒工場の見学及び制作時に出た端材を利用してペン立てを作成する等、地元の伝統工芸に触れました。

参加者の中には、今後の居住場所が未定の方もいましたが、地域住民や地域のボランティアと交流し、「いろいろな方々と話ができ、楽しかった」、「奥州の伝統に触れ、沿岸ではできない体験でとても良かった」との声が聞かれました。

奥州市内では、このほか、NPO 法人復興支援奥州ネットが、毎月サロンを開催し、避難者同士が交流しています。



内陸・沿岸の生活支援相談員が運営協力 —NPO が避難者交流会を開催—

平成 28 年 3 月 5 日（土）、NPO 法人いなほは、花巻市交流会館を会場に「内陸避難者交流会」を開催し、盛岡市、花巻市、北上市、奥州市、滝沢市、紫波町、矢巾町、金ヶ崎町に避難している方々（内陸に自宅再建した方も含む）154 名が参加しました。



花巻市社協、北上市社協、奥州市社協、滝沢市社協が共催し、生活支援相談員が会場設営、受付等の運営協力を行いました。

また、沿岸からは、宮古市社協、陸前高田市社協、山田町社協の生活支援相談員等も参加し、それぞれ出身地毎のテーブルに入り交流しました。

会場では、久しぶりの再会に手を取り合って喜んでいる姿や、お互いに連絡先を交換する姿が見られました。また、「沿岸の様子が聞いて良かった」との声がありました。

良かった点

- 内陸の市町村社協や支援団体が共催し、参加申し込み先となったことや、主催者側が滝沢市発（盛岡市、紫波町経由）と奥州市発（金ヶ崎町、北上市経由）のバスを手配したことで、多くの参加者を得たこと。
- 生活支援相談員が市町村の枠を越え同じ交流会に参加し、運営協力できたこと。
- 学生ボランティア等スタッフが多く、進行がスムーズに行われたこと。